

ディアコニア



神の摂理の貧しい僕

牧師 伊藤瑞男

「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」（ガラテヤの信徒への手紙3・28）

最近、わたしは、若いころ記憶したアメリカ第16代大統領リンカーンのゲティスバーグ演説を思い起こし、考えさせられています。なぜなら、この演説において示されたアメリカの政治規範が、最近のアメリカの政治状況によって危うくされているように思えるからです。

リンカーンは、奴隷制度の存廃を懸けて北部連邦政府と南部連合との4年にわたる激しい内戦を導き、勝利して奴隷解放を成し遂げたのですが、この演説は、この戦争の天王山となったゲティスバーグの戦いに勝った後、無名戦士の墓地奉獻式典（1863年11月19日）でなされ

たものです。

演説の冒頭で、リンカーンはこう言います。「87年前、われわれの父祖たちは、自由の精神に育まれ、すべての人は平等に造られているという命題に捧げられた新しい国家をこの大陸に生み出した。現在われわれは、一大国内戦争の最中にあり、このような精神において生み出され、このように捧げられた国家が、長く続くうるかどうかの試練を受けている。」

つまり、自由と平等を国の基本理念とするアメリカ合衆国が長く存続できないかもしれない、という危機感を、リンカーンは持っていたということです。

さらに、この演説の終わりで、こう述べています。「われわれこそ、残された大いなる事業にここで身を捧げるべきである。その事業とは——人民の、人民による、人民のための政治が、この地上から減じることがないようにすることである。」

リンカーンは、このような民主主義政治の基本を打ち出し、アメリカは世界政治における指導的地位につくべき使命

を負っていることを明らかにしたと見てよいと思います。

そして今、アメリカは再び民主主義の危機にあると思われます。同時にそれは世界の他の民主主義国の不安を呼び起こしています。日本もそうです。日本は、第二次世界大戦後、この民主主義政治を受け入れ、リンカーンの言葉には親しみを覚える人が多いからです。

リンカーンは、若いころ南部に旅行した時、奴隷売買の光景を目撃して、これは道徳的に間違っていると確信しました。それを聖書によって確認し、奴隷制度は許されない悪だと終始一貫して主張するようになりました。しかし、政治的には奴隷制度をすぐに廃止することはできないと判断し、徐々に廃止へと持つていくことを主張したのです。なぜなら、奴隷制度は、アメリカ特に南部において政治的にも法的にも根付いていたからです。奴隷を所有することは違法ではなかったのです。ここに、リンカーンの苦悩がありました。

しかし、南部諸州は州の住民主権を主張し、奴隷制度を許容する州が結束し

て連邦から離脱し、独自の政府をつくり、北部軍を攻撃して、国内戦争へと突入しました。リンカーンは、分裂した連邦は奴隷問題を解決することはできず、アメリカは世界の中で没落すると考えていたようです。結局争点は奴隷問題で、奴隷制度廃止という正しい道を取るためには、戦争に勝ち、多数決という民主主義的手段に拠らなければならなかったことが見えてきます。

この南北戦争において、双方の戦死者は62万人を超える大きな痛手でした。リンカーンはゲッティスバーグ演説で、「これらの戦死者の死をむだに終わらしめないことを固く決意し、この国に、神の下で新たな自由を生み出す」ことに献身すべきであると訴えています。

「新たな自由」とは何でしょう。

ここで、リンカーンの生き方と思想はキリスト教とどう関係しているのか、という疑問が浮かび上がります。リンカーンはバプテスト派の教会の信徒であった両親の下で育ちましたが、生涯どの教会にも属しませんでした。しかし、

晩年に近づくほどに、深く聖書を読み、祈り、奴隷制度は神が許さない悪であるとの信仰を公にしました。その信仰は一言で言えば、自分は神によって用いられているとの摂理信仰であったようです。彼は、自分は「神の摂理の貧しい僕」と告白しました。しかし、キリストや十字架等の教義には触れませんでした。リンカーンにとって「新しい自由」とは、恐らく神の義と導きに悔い改めて服従する自由であったのではないか、と思われるます。

わたしはケンタッキー州の片田舎にあるリンカーンの生家を訪ねたことがあります。その家は小さな丸太小屋で、一室しかなく、床もなく土間の上にベッドが置いてあるだけでした。その貧しさに驚きました。開拓者であった父を助けての労働に暇なく、学校教育を受けたことは半年足らずだったが、向学心が強く、独学で自己形成を続けました。そして、雑貨屋の経営、インディアン討伐の義勇兵、連邦陸軍の兵役、居酒屋経営等をへて、25歳でイリノイ州下院議員に当

選し、政界に入りました。そして、その2年後にはイリノイ州の弁護士資格を取り開業して、成功しました。そして、奴隷制度廃止の議論が白熱化してくる過程で、全国的に注目されるようになり「正直者」と呼ばれた彼は大統領にまで押し上げられました。

そして、1865年4月15日リンカーンは2期目の大統領に就任した直後に、暗殺者の凶弾に倒れて56歳の生涯を閉じました。南部では、彼に対する暗殺者を雇うために募金を公に行う団体もあったのですから、自由の乱用の弊害は極まっていたといえるでしょう。

こうして、リンカーンは、アメリカが南北戦争の危機を乗り越え、その民主主義を前進させる上で、巨大な貢献をしました。それを可能としたのは、貧困から身を起こし、向上することに喜びを持ち、地位を得ても謙虚さを失わなかったからではないでしょうか。民主主義を勧める彼の言葉は、今も世界の人々に届いています。まことに、神に用いられた人でした。

小さな群の中から

姉妹また一人逝く

天羽道子

わたしたちの小さな群れの中から、また一人、シュヴェスター・ウタコ（桜庭歌子姉）が、4月21日13時に天父のもとに召されました。2012年10月からお世話になっていたグループホームの相浜ガーデンで。99歳10か月でした。「なんとか頑張つて百歳を迎えさせてあげたい」と介護をしてくださっていたスタッフの方々の願いはかないませんでした。

13年半、殊に後半、親身になって介護をしてくださっていたスタッフの方々に、シュヴェスター・ウタコは、言葉に表せない感謝の思いを抱いていたに違いありません。心よりお礼を申し述べました。同ホームで共にお世話になっているシュヴェスター・トヨ（小川都代姉）の嘆きは大きく深く、悲しみを共にしました。

今年2月3日にシュヴェスター・チエコ（眞山知恵子姉）が召されて、ベテスタ奉仕女

母の家のディアコニッセ（奉仕女）はいよいよ小さな群れ——たった3人の小さな群れ——になってしまいました。

「相浜ガーデンに入所して二年になろうとしています。二か月に一度、お花見や城山公園などに出かけて行きますが、帰ってくるとうつたり疲れて横になってしまいました。でも、夕食の後は、就寝の支度に忙しい職員のお手伝いに、毎日食器洗いをしています。ドイツ風にしっかりと湯通しもして、それから、ニュースや野球をテレビで観



左から桜庭、天羽、深津

て休みます。」

（ディアコニア281号 桜庭歌子）

★シュヴェスター・ウタコの歩みについては、次ページをお読みください。

2002年8月に右手を骨折し入院し、退院後もしばらく「にじのいえ」で静養されました。その後、10月には、看護からユツカ寮の担任からも退いて、管理棟の2階に居を移し、看護師は松岡督と、担任は横田小夜と交代し、ボランティア的な立場になりました。

シュヴェスター・ウタコは、「春子先生（深津春子）のように生涯現役で」を口癖にしていたのですが、この状態で職務に復帰することは肉体的・精神的にも困難だという、かいた婦人の村施設長としての天羽の苦渋の決断でした。

2012年10月に、主治医の勧めで、やつと相浜ガーデンに入所することができました。それから13年半、手厚い介護を受け、姉妹の最後を看取つていただき、本当に感謝しております。

シユヴェスター・ウタコ の歩み

天良さゝ子

シユヴェスター・ウタコ（桜庭歌子姉）は
1926年6月23日、北海道美唄市にお
生まれになり、後に、美唄教会にて洗礼
を受けられました。

1963年1月、北海教区の研修会に
講師として招かれた深津文雄牧師に出
会って奉仕女について知り、心を動かされ
ました。ベテスタ奉仕女母の家の指導姉
妹であったシユヴェスター・ミチからの手紙
に導かれ、4月、ベテスタ奉仕女母の家の
「二年志願女」となりました。

その後、生涯を捧げる決心をされて、
1964年5月24日、第9期奉仕女2名
のおひとりとして母の家に入館し、奉仕
女となりました。

1965年4月、いずみ寮に看護師と
して配属されました。ディアコニア157
号の「かなしみは地にあらじ・出会いそし
て別れ」と題された一文にそのころの苦悩

に満ちたお働きが記されています。

1967年3月1日、シユヴェスター・エ
リーザベツトがドイツへ帰国されるのと
交代で、かにた婦人の村に看護師として
配属されました。嘱託医を迎えての診
察、毎日の治療、入院している村人のお
見舞いや看取りなど、多くの村人と関わ
り、村人との間に強い絆を結ばれました。
その間のことは、「ありがとう歌子せんせ
い」にも読み取れます。

1978年3月12日、長年の夢であった
高齢者看護棟ユツカ寮が落成し、シユヴェ
スター・ウタコはユツカ寮の寮母室に住み
込まれて、看護婦としての仕事だけでな
く、ユツカ寮の生活全体の支援や日祭日の
食事作りも受け持たれました。また、シユ
ヴェスター・トヨと一緒にスリーデイマーチ
に参加された後、「かにたでも歩くこと
を楽しみましょう」と、月1回のアルクヅ
ウを提案。それは今でも続いています。琴
のグループを作って村人と楽しんだり、籐
細工でイースターエッグを入れる籠を女
子職員と二緒に作ったりなど、積極的に新
しいことをなさいました。その籠は今でも
イースターの朝の食卓で使われています。

また、法人の機関誌「ディアコニア」の編集
にも携わるなど、多岐にわたるお働きを
なさいました。

2012年体調を崩され、10月20日に
館山市の海の近くにあるグループホーム
相浜ガーデンに入居されました。

2026年4月21日の、「なんとか頑
張って百歳を迎えさせてあげたい」と言っ
てくださっていた相浜ガーデンのスタッフの
願いはかなわず、召天されました。

そのお顔はとても穏やかで、平安な美
しいお顔でした。それは15年にわたる相
浜ガーデンでの生活が、スタッフの方たち
のお力で守られていたからだと感じまし
た。シユヴェスター・ウタコが「感謝してお
られると思います。

眠っているときか思えないシユヴェス
ター・ウタコに向かって、シユヴェスター・トヨ
が「おきてよー」「おきなさいよー」「いや
だよー」と必死に声をかける姿は、8年
間を共に暮らした相浜ガーデンでも、お
二人の友情がはぐくまれていたことを強
く感じました。
(告別式に)

ありがとう 西船店

かにた作業所エマオ
施設長 佐々木清

全国から送られた品物を整理してバザーを開催したり、和服を裂いて裂き織をしたりしていたかにた婦人の村の作業班は、2014年6月にかにた作業所エマオとして生まれ変わりました。

かにた婦人の村の作業班として2010年4月に賃貸契約を結んだ船橋市のリサイクルショップ「かにた西船店」は、エマオが発足してからも続けられてきましたが、2026年

3月をもちまして閉店し、16

年の歴史に幕を閉じること

になりました。かにた西船店は、木村建設工業本社ビル3

階にある「西船アートギャラリー」のオーナーである板倉

貴志子さんのお申し出と、木

村建設工業の前社長・木村本

治さんのご厚意によって、長い間運営できていました。このことを皆さ

まにも知っていただきたくご報告いたします。

まずはご縁から。

初めて板倉さんとお話したのは2002年、西船アートギャラリーで個展を開いていた裂き織作家の野中ひろみさんからの紹介でした。

野中さんは、日展や工芸展に何度となく入選された、裂き織の世界では有名な作家さんで、長野県諏訪郡原村の八ヶ岳美術館の近くに工房兼教室とギャラリーを持っていました。

野中さんとは、1998年に全国裂き織協会の研修旅行（案内役・佐々木



野中さんのタペストリー

出品してくださり、全国裂き織協会の理事としても活躍してくださいました。

野中さんは、個展に来たお客様から「裂き織の材料がほしい」といわれたとき、かにた婦人の村に送られてくる和服のことを思い出し、板倉さんと相談して2002年に西船ギャラリーで裂き織の材料としての和服販売を始めてくださいました。

その後、板倉さんからの提案と協力で、かにた婦人の村のバザーで売り切れなかった品物の販売会や、かにたフェア（かにた婦人の村の作品の展示販売、農作物の販売）など、毎年2回程度のイベントが開催されるようになりました。

常設店「かにた西船店」開設

西船ギャラリーでの、かにたの販売会やイベントに来るお年寄りたちの中に、毎回顔を出す方たちがいることに気がついた板倉さんは、その方たちに「おかえりなさい」とか「いってらっしゃい」「気をつけてねー」など、まるで友人や親戚のおじいさんお

ばあさんにするように声をかけ、西船ギャラリーはお年寄りたちのサロンのようになっていきました。

買い物をしてくださる方はもちろん、お茶を飲んでいくだけの方、買ってきた野菜の調理法を確認していく方など、気軽にギャラリーを利用していました。ほのぼのとした雰囲気の間がそこにはありました。でもギャラリーは、イベントのないときは閉まっています。

そこで、木村建設工業の前社長・木村本治さんの出番です。家賃45万円のところ賃料、管理費、消費税込み20万円という破格の条件でかいた婦人の村の作業班に貸してくださることになったのです。

西船店を支えたボランティア

かいた婦人の村西船店が開店すると、木村前社長は6階にある会社事務所からお出かけになる時には、3階にあるかいた婦人の村西船店に立ち寄って、板倉さんに「〇〇に行ってくる」と声をかけ、ご自分と同じようなお年

寄りがいると、気さくに声掛けをしてくださいました。病院へお見舞いに行くときなどには、かいた西船店で、病院スタッフへのお土産の品（ハンケチや可愛いハンドタオルなど）を買ってくださいました。

かいた西船店が開店すると、買い物に来てくださったお客様の中から、「お手伝いさせてください」と申し出てくださる方たちが出てきました。

皆さん高齢の方たちですが、生き生きと楽しそうにお客様のお相手をしてくださっていました。学校の先生をしていた方、航空会社のキャビンアテンダントをしていた方、全くの主婦で外で働いた事のない方、障害を持つお子様のある方、ご主人の介護と自らのケアの必要な方などが、ボランティアとして働いてくださるようになりました。

しかし、楽しかったかいた西船店も新型コロナウイルスには勝てませんでした。お客様が減り、お店の維持費を確保するのがやっとなような状態が続きました。ボランティアさんたちも16

年も経ちますと、それぞれ年齢を重ね、後期高齢者が多くなりました。

そして、3年前には、お世話になった木村本治前社長が亡くなりました。

自宅に遺された品物のご寄付を受けた中には、かいた西船店で購入された品物もたくさん含まれていました。賃貸契約料の支援と売り上げとの両方にご協力をいただいていたことを強く感じました。

最後に、大相撲溜り会（タニマチ）会長で横綱審議委員を務めた木村前社長の笑顔の写真を掲載し、感謝とともにご冥福をお祈りいたします。



エマオからの報告

かにた作業所エマオ
施設長 佐々木清

「やっと、出来そうです。」——こう書きだしたのは12年前ですが、今回は、2回目の事業所更新手続きが、やっと完了できそうです。

先日、更新手続きのため千葉県庁12階の千葉県障害福祉課施設指導班の相談室に向きました。担当者と相談中、エマオ開設時にとってもお世話になった当時の担当者NKさんが来られ、「何か聞き覚えのある声でしたので、来てみました。やっぱり佐々木さんでしたか」と声をかけてくださいました。

開設時の手続きでは困難なことが多く、社会福祉法人ベテスダ奉仕女母の家の財務状況、特にかにた婦人の村の財務状況が寄付金頼みで「実際には赤字法人」ではないかと言われました。過去5年分の決算報告書を持って、毎

年後援会員からの決まった寄付金が入ること、その他に全国から送られてくる寄付品の販売で収入を確保し、施設整備事業や、次期活動のための固定資産購入を実施していることなどの説明をしました。

千葉県庁には6回ぐらい通いましたが、その度にNKさんが担当してくださり相談にのってくださいました。対話を重ねる中で、運営計画や工賃規定、対象者の範囲など、かにた作業所エマオのやりたいこと・方針が明確にされ、とても良い運営規定が出来たと思います。私にとっては恩人のような方です。声をかけてくださり、ありがとうございました。

エマオの現状

11年前に利用開始した特別支援学校の卒業生たちも、今年は30才になります。よい仲間で、楽しい毎日を過ごせていますが、先の事も考えています。利用者さんの年齢と同じだけ、ご両親の年齢も上がりましたから。

Kさんのこと

鴨川市から通っているKさん、2年前にお祖母さんが急逝し、家庭状況が一変しました。もともと母親不在の家庭でしたので、残されたのは、耳の遠いお祖父さんと、お仕事大好きでちよつと支援が必要なお父さんとKさんの3人でした。

一家の大黒柱、しつかり者のお祖母さんが亡くなったのは、ちょうど今頃の季節。山の上の涼しいKさん宅では、ちょうど衣替えの最中で、家の中には冬服や夏服、タオルケットや夏掛け布団等が、ところ狭しと積まれていました。お祖母さん一人での家事は大変だっただろうと思いました。

お祖母さんの死後、お父さんの頑張りで、何とか3人の生活は維持できていました。しかし、お祖父さんの体調不良と入院があり、退院後には介護サービスや、ホームヘルパーによる家事支援の利用が始められ、お父さんも生活の難しさを感じ始めていました。

お父さんは、Kさんのケアマネー

ジャーからの提案で、Kさんのグループホーム利用や短期入所のことを真剣に考え始めてくださいました。新しいグループホームが建築中だという情報もあり、見学してみてもというお誘いがあつたようです。

場所は、館山市の八幡神社の近くで、目の前には湊地区の子安神社があり、お祭り好きなKさんやお父さんには魅力的な場所だったようです。

真新しい建物は設備もグループホーム用に設計されていますので、住みやすそうです。本人は勿論、お父さんも気に入ったようで、早速体験利用が始められました。毎週1日ずつ増やしていく、5週目で週5日の利用になりました。そして、週5日利用の契約が結ばれました。

お祖父さんには、ちょっと寂しい気持ちもあるようでしたが、自分の体調を考えると、いつまでも3人の生活が続けられるわけではないことが分かっていました。現在、Kさんは、日曜の午後から金曜の朝まで週5日間グループホームでの生活ができています。

少しだけ安心いたしました。
HYさんのこと

こちら、60代半ばのご両親とお姉さんの4人暮らし。ご両親ともに持病があり、Yさんの事が心配になり始めていました。お父さんが入院した時やお母さんが入院した時など、お祖母さんや近くの親戚の助けを受けてその時その時を乗り切ってきました。

Kさんがグループホームで生活するようになったことから、少し気持ちが動いたのか、お父さんが見学や体験の事など積極的にお話を進めてくださっています。体験利用の結果が良いためであつてほしいと願っています。

エマオの現状ですが、
新型コロナウイルス

発生以来、バザーの売り上げは、以前の7〜8割程度に落ち込んでしま



バザー第一会場

いました。しかし、5月末の金土に開催した今年度最初の夏バザーでは、売り上げが9割近くまで回復し、ほつとしています。

バザーやエマオ駅前店や移動販売で売れ残った商品は、盛岡福祉バンクへの寄贈が再開できそうです。全国の皆さまから寄付していただいた品物が、

余すことなく再利用さればうれしいです。

46年前、深津先生に言われた『施設は地域福祉の資源であり、リーダーであるべきだ』という言葉。これからも、深津先生に恥ずかしくないように、入所者のみなさんと楽しくエ

マオを続けていきたいと思っています。

ゆくよび

シゲシゲから
ひとこと

何事もなき日は嬉し春の宵

願ひみな届かぬ思い春風

春の塵忘却の渦とめどなく

ひと言の言葉身に沁む春の雨

春の鳥何を交わすや楽し氣に

(植木道子)

今朝6月19日金曜日の朝、NHK総合おはよう首都圏の中で、「かにた婦人の村における長年の献身的な取り組み」として、わたくし天羽道子の働きが紹介されました。かにた婦人の村で共に生活してきた村人たちが、何人か友情出演してくれました。私の大切な「共生の友」の応援と協力を、本当

に有難く思いました。

「共生」の思想、

「共に生きる」こと

の思いが、今日の社会の中でますます大

切にされなければならぬと思えてならないことを、番組を見た方々にお伝えできれば……。

百歳を目前にしているせいでしょうか、最近、新聞の取材、テレビの取材、自由学園のオンライン授業、ハーモニー春日部の男女共同参画週間ビデオ出演などが続き、自分のこれまでの歩みを振り返ることが増えています。

(天羽道子)

「かにた婦人の村の歩み」



「かにた」の女性共同参画推進員天羽道子。2010年、ハーモニー春日部の男女共同参画週間ビデオ出演などが続き、自分のこれまでの歩みを振り返ることが増えています。

あまは みちこ
AMAHIA MICHIKO
6月27日(土) 13:30~15:30
アーカイブ配信あり(7/10日~7/20日)
ハーモニー春日部 YouTube 配信リンク先から視聴

★ご案内 ベテスタの日は、9月26日
いずみ寮にて開催いたします。

相浜ガーデンでは、お花見に出かけたり、桜餅を作ったりの行事のほか、洗濯物たたみや食器拭き、料理の下ごしらえなど、座ってできる家事のお手伝いをすることもあります。歩行器は手放せませんが、リハビリにも励み、元気に過ごしています。

6月1日、91歳のお誕生日に海辺にあるお寿司屋さんに出かけました。前の週



まで風邪気味で食欲がなかったとのことでしたが、たくさん召しあ

がり、デザートにプリンもべろり。仲良しのシュヴェスター・ウタコの亡くなった悲しみは消し去って、毎日を明るく生きています。

小川都代(塩川成子記)

★訂正

誤 帰り花生かされしの不思議さよ
正 帰り花生かされし日の不思議さよ
お詫びして訂正いたします。

献金・賛助金に感謝します

青木清子 赤山孝子 浅野康子 荒川恵美
子 五十嵐敏子 池田直子 石塚久江・八
重 今井一幸 今井佳代 植木道子 上前至
大塚ふみ子 大西恵子 大浜亜紀 勝幾代
加藤大 金井孝子 木田みな子 小口晃生
腰山佳子 小林充子 近藤眞子 酒井忍 笹
原豊 定家明子 佐野春菜 佐野雅子 篠川
栄一 柴山操 進藤みのり 菅野百合子 菅
宮泰代 鈴木節生 関本郁子 芹澤利奈 瀧

田正亮 竹田美香 田丸まり子 田村和子
塚田政司 鶴田淑子 土井倫子 外池いず
み 匿名 富田裕 中山勝也・雅子 中山健
介 中山範奈 野浪侑子 萩原永子 橋本治
濱田美恵子 原田桂子 原田冬樹 水川英
俊 平松秀一 福本和代 藤田雅子 細川敦
子 増永成子 宮之原光枝 村松一恵 森田
富美子 茂呂塾 保育園職員 山崎俊子 余
郷志津子 吉田久子 吉田やす子 脇坂ゆ
かり 渡瀬絢美 渡辺さぬよ 渡邊雅雄 渡
邊礼子 関西学院 金城学院 捜真女学校

高等学部・捜真女学校中学部 ベテスダ姉
妹会 東洋英和女学院小学部母の会 東
洋英和女学院中学部高等部母の会 東洋
英和女学院中高部宗教委員会 立教女学
院 キリスト教センター 大泉ベテル教会
柿ノ木坂教会 鎌倉雪ノ下教会 蒲田教
会 交野教会 代田教会・藤山 田浦教会
エレミヤ会 千代田教会・戒能信生 鶴
川北教会有志 藤木謙一 田園調布教会
南三鷹教会 むさし小山教会 洛陽教会

26年2月20日～6月4日（敬称略）

2025年度（令和7年度）決算 資金収支報告書
社会福祉法人ベテスダ奉仕女母の家

（単位：千円）

勘定科目			決算(B)	
事業活動による収支	収入	保育事業収入	220,990	
		就労支援事業収入	12,197	
		障害福祉サービス等事業収入	27,025	
		婦人保護事業収入	287,015	
		借入金利息補助金収入	62	
		経常経費寄附金収入	44,666	
		受取利息配当金収入	586	
		その他の収入	28,732	
		事業活動収入計(1)	621,273	
	支出	人件費支出	419,592	
		事業費支出	79,118	
		事務費支出	57,063	
		就労支援事業支出	10,278	
		日中作業支出	1,415	
		支払利息支出	5,832	
その他の支出		15,573		
事業活動支出計(2)	588,871			
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		32,403		
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	7,287	
		施設整備等寄附金収入	23,607	
		設備資金借入金収入	677,690	
		固定資産売却収入	3,495	
		施設整備等収入計(4)	712,078	
	支出	設備資金借入金元金償還支出	1,391,778	
		固定資産取得支出	30,283	
		施設整備等支出計(5)	1,422,061	
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△ 709,983
		その他の活動による収支	収入	長期運営資金借入金収入
積立資産取崩収入	4,856			
その他の活動による収入	172			
その他の活動収入計(7)	73,950			
支出	長期貸付金支出		91	
	投資有価証券取得支出		3	
	積立資産支出		29,849	
	その他の活動による支出		1,301	
	その他の活動支出計(8)		31,244	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		42,706	
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)		△ 634,874		
前期末支払資金残高(11)		786,604		
当期末支払資金残高(12)=(10)+(11)		151,731		

決算の詳細はホームページに掲載いたします。

おしらせ

★理事会報告

◎第269回理事会 26年3月28日
法人本部

【報告】第号かいた婦人の村の件

【審議】

第二号 2025年度第三次補正予算
第二号 2026年度事業計画並びに
予算の件

第三号 その他 茂呂塾保育園の規則改

訂経理規程改訂について

全員の賛成で原案通り議決

◎第270回理事会 26年5月30日

法人本部

【報告】第号業務執行理事報告

第二号 かいた婦人の村の運営について

【審議】

第二号 2025年度事業報告並びに
決算報告

第二号 2025年度監査報告

第三号 理事並びに監事交代の件

第四号 第21回定時評議員会の件

第五号 いずみ寮副施設長任命の件

第六号 その他

全員の賛成で原案通り議決

かいた婦人の村の課題

現在のかいた婦人の村の課題は、施設運営に必要な補助金（措置費）が必要額支給されていないことにあります。

生存権を保証するために設置されている第一種社会福祉施設は、国が定めた職員数を雇用できるだけの人件費や事務にかかる光熱水費などの固定費を、定員数で割り返して「事務費単価」とし、単価に定員数を乗じたお金が、自治体と国から半額ずつ施設に支払われます。全国のどの女性支援施設も同じです。

平成12年に、国が定員数払いを現員数払いに変更すると突然言ってきたので、当時の施設長は抵抗しました。国の担当者は、必要な事務費の総額を示し、「これを現員数で毎年割り返して単価とするから運営に影響はない」と説明したので受け入れました。

ところがこの約束は「自治体の負担」を理由に、翌年反故にされました。当時、国が算出したかにたの必要経費は、年間9330万円でしたが、現在の支給額は、現員数41名分

7040万円に減り、当時の事務費に比しても2290万円不足しており、寄付金によって国が定めた職員数を維持しています。

厚労省には改善を強く要望して参りますので、皆様もお祈りに加えてください。

かいた婦人の村施設長・五十嵐逸美

★編集後記

主のたいなる御名を讃美いたします。多くの方々のご支援とお祈りにより法人運営が支えられていることを心より感謝申し上げます。（大沼）

2026年7月15日発行（年3回）

発行人 大沼昭彦

編集人 村田英彦

〒178-0061

東京都練馬区大泉学園町7-17-30

社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家

電話 03-3924-2238

<https://www.bethesda-dm.org/>

振替口座0019002138164